

2023 年度

授 業 計 画

精神保健福祉士養成学科（昼間課程）



学校法人 敬心学園

東京都知事認可 厚生労働省指定養成施設

日本福祉教育専門学校

「授業計画」の活用法について

この「授業計画」は、みなさんが在籍する学科を卒業するために必要な科目について、学習を進める上での**基本的な設計**が書かれてあります。

【記載事項】

基本的な設計とは、

- (1) 目標・・・何を目指している・何をねらっている科目なのか
 - (2) 指導・・・目標を達成するための学習順序や授業方法、使用する教材等
 - (3) 評価・・・目標の達成度合いをはかること
- です。各科目について右ページの項目で整理・構成されています。

【上手な活用法】

(1) 最初の授業が始まるまで

「ねらい」「到達目標」を確認する

▼障害者に対する支援と障害者自立支援制度の例

●授業のねらい●

障害者福祉制度の変遷を理解するとともに、障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の仕組みとその内容について学習する。また、障害者本人への自立に向けた支援のみならず、家族への支援の方法についても習得する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・障害者福祉の理念である概念を踏まえ、具体的な障害者への支援の方法と障害者総合支援法の内容について理解ができる。
- ・現代の障害者福祉制度の歴史的変遷を理解し、自分なりに新たな福祉のかたちを構想することができる。

(2) 最初の授業とあわせて

「評価方法」を確認する。**科目の特性により**、評価の方法が異なります。

当校の評価は、「**定期試験**」「**出席率**」の**2つの方法**を採用しています。各科目の特性に応じて、評価における重みには違いがありますが、授業に全て出席し、授業中に行われる確認テスト（小テスト）や各種レポート課題などもしっかり提出することで、定期試験でもよりよい評価が得られるという基本的な考え方はいずれの科目にも共通します。従いまして、授業の中で実施する各種テストや個別に提示される課題の提出状況なども上記の中で評価されます。

(3) 日頃の授業とあわせて

「授業計画」における進み具合（現在の位置）を確認する。

※予習・復習をしたり見通しをもって授業に参加したりすることで日々の授業での理解が高まり、定期テストなどの直前の学習に余裕ができます。

予習・復習の活用例

授業の前に重要な法律名や用語、人物名を確認しておく

①②③と続く内容がおわったところで①～③までつながりで確認しておく

授業で小テストがあったら、正解していてもなぜそれが正解かを言えるようにする

わからないことがあれば、リアクションペーパーに質問を整理して提出する

「授業計画」の活用法について

科目名

■障害者に対する支援と障害者自立支援制度

講師名

高田 次郎丸

2CW1・2 / 講義 / 2単位 / 半期 / 必修 (15回)

期間や回数等

本科目の学習で
目指すこと

●授業のねらい●

障害者福祉制度の変遷を理解するとともに、障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の仕組みとその内容について学習する。また、障害者本人への自立に向けた支援のみならず、家族への支援の方法についても習得する。

学習の結果必ず到達
したい状態目標

●授業の方法●

教科書や配布プリントに沿って講義しつつ、事例検討を積極的に取り入れて進める。また、進行度合いに応じて、介護福祉士国家試験の過去問題等にも触れる。

授業の方法や形式

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・障害者福祉の理念である概念を踏まえ、具体的な障害者への支援の方法と障害者総合支援法の内容について理解ができる。
- ・現代の障害者福祉制度の歴史的変遷を理解し、自分なりに新たな福祉のかたちを構想することができる。

授業の進め方
学習項目のおよその
ながれ・見通し

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション、障害者の自立について
2. 障害者制度の歴史的変遷①
3. 障害者制度の歴史的変遷②
4. 障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の概要
5. 障害者自立支援制度と関連法令
6. 障害者への支援の方法
7. 事例検討①
8. 事例検討②
9. 障害者への支援の方法（外部講師）
10. 事例検討③
11. 障害者の家族への支援の方法
12. 事例検討④
13. サービス等利用計画案の作成①
14. サービス等利用計画案の作成②／今講義まとめ
15. 定期試験

※講義の進度により、講義
内容や順序が変更になる場
合があります。

●成績評価・講義上の注意●

成績評価における
各方法がしめる割合

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

『新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解 第6版』
中央法規

授業で使用する教科書

※その他、参考図書や資料がある場合は、講師より授業にて紹介します。授業等の時間にご自身でしっかり確認をし、学習に役立ててください。
※授業でプリントや資料が配布された場合は、教科書とあわせて重要な学習教材となります。

■人体の構造と機能及び疾病

近藤 真名美

P S W 昼 1 ・ 2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

人間の体の仕組みと機能を理解する。また、生活習慣病をはじめとする疾病について理解する。

●授業の方法●

テキスト・必要資料を参照し講義をすすめる。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

人間の体の仕組みと（発達と老化も含め）精神機能の関連性を理解した上で、利用者への関わりが出来る。国家試験合格に向け、必要な知識を習得する。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション第7章健康の捉え方
2. 第1章人の成長・発達と老化
3. 第2章身体の構造と心身機能①
4. 同上②
5. 同上③
6. 第3章疾病の概要①…第2章をふまえて
7. 同上②
8. 同上③
9. 同上④
10. 同上⑤
11. 第4章障害の理解①
12. 同上②
13. 同上③
14. 第5章リハビリテーションの概要第6章国際生活機能分類の考え方
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 90%、出席率 10%

●教科書●

「新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病」(中央法規)

■心理学理論と心理的支援

真柄 希里穂

P S W / 1 ・ 2 / 講義 / 単位 / 半期 o / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

心理学とは、人間の心の働きを実証的に研究し理解する学問である。

本講義では、心理学の幅広い分野を取り上げ、その分野特有の問題と研究アプローチを学習する。

また精神保健福祉士に必要な心の理解に関する臨床的、応用的研究もとりあげ、アセスメント力についての理解を深める。

●授業の方法●

講義を中心に行うが、小実験等も取り入れて体験的に理解を深めるアプローチも行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。
- ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。
- ③日常生活と心の健康との関係について理解する。
- ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。
- ⑤心理職との連携について理解する。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 心理学の成り立ち 心理学の領域 科学としての心理学
2. 学習心理学 行動主義心理学 条件づけ
3. 知覚心理学 感性特性と閾値
4. 認知心理学 記憶の特性
5. 発達心理学 自己と社会性の発達
6. 個人差心理学 人格 知能検査 WAIS 他
7. 社会心理学 自己 印象形成 集団 社会的影響
8. 産業心理学 リーダーシップ 職場学習と熟達 適正キャリア開発
9. 動機づけ心理学 欲求 防衛機制 葛藤 動機療法
10. 臨床心理学 臨床の現場 支持的療法・認知行動療法 (SST を含む)
11. 犯罪心理学 反社会性パーソナリティ障害 少年法
12. 健康心理学 生活習慣 ストレス ポジティブ心理学
13. 福祉心理学 他機関 他職種連携で必要な心理職の役割
14. 環境心理学 調査研究・症例検討
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 80% 出席率 20%

●教科書●

心理学と心理的支援 中央法規

■社会理論と社会システム

石川 秀志

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

- ・社会理論による現代社会の捉え方を理解する
- ・生活について理解する
- ・人と社会の関係について理解する
- ・社会問題について理解する

●授業の方法●

社会現象（事例＆国試等）を用いて、社会学者の方法論や理論を検討する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

国家試験の過去問 3 ヶ年の問題について、問題の各選択肢の正誤を説明できるようになる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 科目の紹介、国家試験の傾向
2. 方法論的集合主義
3. 方法論的個人主義
4. 社会集団及び組織Ⅰ（社会集団の概念、集団の類型）
5. 社会集団及び組織Ⅱ（組織の概念、官僚制）
6. 家族—家族の概念、家族の変容、家族の機能
7. 地域社会—地域の概念、都市化と地域社会、地域社会の集団・組織
8. 人と社会の関係Ⅰ（社会的行為、社会的役割）
9. 人と社会の関係Ⅱ（社会的ジレンマ）
10. 社会変動—社会変動の概念、近代化、情報化
11. 社会問題の捉え方—社会病理、逸脱
12. 社会問題の理解—具体的な社会問題（差別・自殺等）
13. 過去問研究Ⅰ（第 27 回、28 回、29 回）
14. 過去問研究Ⅱ（第 30 回、31 回、32 回）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験（80%）、出席率（20%）

●教科書●

社会福祉士シリーズ 3 『社会理論と社会システム』（弘文堂）

■現代社会と福祉

白川 耕一

P S W 昼 1・2 / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (30 回)

●授業のねらい●

本科目は社会の動きと関連づけながら、福祉を総合的に理解することを目的としています。①福祉の歴史、②思想、③福祉が作動するメカニズム、④諸外国との比較などの観点から、現在の福祉の位置を知ることが課題です。

●授業の方法●

下記の授業計画に従い、プリントに沿って講義形式で授業をすすめます。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①日本の福祉の歴史のアウトラインを説明することができる。
- ②90年代以降の日本の福祉の現状を、基礎構造改革、社会福祉法、準市場、ソーシャル・キャピタルなどのキーワードを使って説明することができる。
- ③孝橋正一、三浦文夫、古川孝順などの福祉理論を説明することができる。
- ④エリザベス救貧法、ウエップ夫妻、社会保険及び関連サービス、社会的排除、ワークフェアなどの言葉を使って欧米の福祉の歴史を説明することができる。
- ⑤地域福祉を地方分権化、市町村などの言葉を使って説明することができる。
- ⑥現在の福祉の課題を説明することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

- I 第2次世界大戦後から現在までの福祉の発展
 1. 福祉三法の成立（1940年代後半）
 2. 福祉六法体制へ（1950～1960年代）
 3. 「日本型福祉社会の創出」—福祉政策の「見直し」（1970～80年代）—
 4. 少子高齢化社会の到来—1990年代の改革構想—
 5. 全世代型社会保障—2000年代の福祉改革—
- II 現在の福祉の課題（1990年代から現在まで）
 6. 高齢者福祉
 7. 障害者福祉
 8. 子育て支援政策
- III 欧米における福祉の発展
 9. 慈善・セツルメント・社会改革（19世紀）
 10. 福祉国家の成立（20世紀半ば）
 11. 福祉国家の改革（20世紀半ばから現在まで）
- IV 1945年までの日本における福祉の発展
 12. 明治時代
 13. わが国における社会事業の成立
 14. 戦時厚生事業
 15. 定期試験（前期）
- V 福祉の思想
 16. 福祉を支える思想①（日本）
 17. 福祉を支える思想②（ヨーロッパ、アメリカ）
 18. 福祉を支える思想③（ロールズ、セン、その後）
 19. 福祉を支える思想④（国連の動き）

VI 福祉のメカニズム

20. 福祉政策におけるニーズ（必要）とデマンド（需要）
21. 地域福祉の発展
22. 福祉における公・私の関係
23. 無縁社会を乗り越える

VII 福祉政策と関連政策

24. 不登校対策
25. 保健政策
26. 雇用政策
27. まちづくりと住宅

VIII 福祉の国際比較

28. 福祉国家の現状—アメリカ、ドイツなど—
29. アジアの社会福祉
30. 定期試験（後期）

●成績評価・受講上の注意●

定期試験（100％）

●教科書●

『社会福祉士シリーズ4 現代社会と福祉 第5版』福祉臨床シリーズ編集委員会編（弘文堂）

■地域福祉の理論と方法

八木 亜紀子

P S W 昼 1・2 / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (30 回)

●授業のねらい●

1. 地域福祉を、人間尊重、自立支援、地域生活支援、地域以降、社会的包摂などの基本的な考えを踏まえて、展開できる。
2. 地域福祉に関する組織、団体および専門職の役割と実際について説明できる。
3. 地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、ニーズの把握方法、地域包括ケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。)について理解し、展開できる。

●授業の方法●

1. 授業は教科書と教科書の内容に沿ったレジュメを用いた講義を中心に行う。教科書の内容確認と追加説明を行う。
2. 随時、地域福祉に関する新聞、雑誌、DVD、動画等の資料を用いて理解を深める。
3. 小グループによるディスカッションとその報告などを実施し、参加型の授業にする。
4. 毎回授業の終わりに確認テストを行い、その日の授業内容の理解確認を行う。

●授業修了時の達成課題(到達目標)●

地域を基盤としたソーシャルワークの理論と実践について学び、地域社会における課題を自ら発見・分析する方法を習得して、実際に展開実践できる。

●授業計画(講義の流れ)●

(前期:内容は、授業の進捗によって変更の可能性はある)

1. 地域福祉とは何か、地域福祉政策の動向
2. これからの地域福祉に求められること
3. コミュニティの範囲と機能、コミュニティの定義
4. 福祉コミュニティとは
5. 地域福祉理論の発展
6. イギリスに見る地域福祉
7. アメリカに見る地域福祉
8. 日本の地域福祉
9. 地域福祉の主体と対象
10. 住民参加
11. 社会福祉における地方分権と地域福祉計画
12. 地方自治体の役割
13. 民間の役割、社会福祉協議会、地域組織と民生委員・児童委員
14. 地域福祉における専門職の役割
15. 前期まとめ、定期試験

(後期:内容は、授業の進捗によって変更の可能性はある)

16. ネットワーキングの実際例
17. ネットワーキングの手法を学ぶ
18. 地域における社会資源について
19. 社会資源の活用
20. 地域におけるアウトリーチについて
21. 福祉ニーズの把握方法
22. 地域包括ケアシステムの構築について
23. 地域包括ケアシステムの具体例(高齢者)
24. 地域包括ケアシステムの具体例(障害者)

25. 地域包括ケアシステムの具体例(児童)
26. ソーシャルサポートネットワークについて
27. コミュニティワークとソーシャルサポートネットワーク
28. 福祉サービスの評価
29. 運営適正化委員会、第三者評価について
30. 後期まとめ、定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 60%、リアクションペーパーの提出、授業への積極的な参加 40%

●教科書●

社会福祉士シリーズ9「地域福祉の理論と方法<第3版>(弘文堂)

■福祉行財政と福祉計画

蟻塚 昌克

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

社会福祉を理解するためには、福祉行財政と福祉計画の知識は必須である。授業のなかでは、福祉行財政の仕組みや福祉行政・団体・専門職、福祉計画の目的と意義等の理解を深めることによって、社会福祉の全体像をつかむことを目指す。

●授業の方法●

講義形式。質問は適宜受け付ける。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

国家試験合格に必要な知識を身につけること。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 授業内容と目標
2. 福祉行財政と福祉計画（1）
3. 福祉行財政と福祉計画（2）
4. 福祉行政
5. 福祉財政
6. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割（1）
7. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割（2）
8. 福祉計画の目的と意義
9. 福祉計画の理論と技法
10. 福祉計画の理論と技法（1）
11. 福祉計画の理論と技法（2）
12. 福祉計画の実際（1）
13. 福祉計画の実際（2）
14. まとめ
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

「社会福祉学習双書 2020 社会福祉概論Ⅱ」 全国社会福祉協議会

●授業のねらい●

精神保健福祉士として活躍するのに必要な社会保障に関する基礎を体系的に理解することを目標とする。具体的には、①現代社会における社会保障制度の課題、②発達過程を含めた社会保障の概念や対象及びその理念等、③公的保険制度と民間保険制度の関係、④社会保障制度の体系と概要、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要の理解を目指す。

●授業の方法●

基本的には教科書の流れに沿うが、必要に応じて資料を配付しながら講義形式で行う。また、国家試験の過去問などを用いて知識の定着を図りながら進めていく予定である。

●授業修了時の達成課題(到達目標)●

精神保健福祉士として必要な「社会保障」に関する基礎知識(具体的には、授業の狙いで示した①～⑥)を体系的に理解した上で、①説明できること、②議論できること、が到達目標である。なお、「国家試験の問題が解けること」は当然である。

●授業計画(講義の流れ)●

1. 社会保障制度の課題①(人口動態の変化、少子高齢化)
2. 社会保障制度の課題②(労働環境の変化)
3. 社会保障の概念・対象及び理念①(概念と範囲)
4. 社会保障の概念・対象及び理念②(役割と意義)
5. 社会保障の概念・対象及び理念③(理念)
6. 社会保障の概念・対象及び理念④(対象)
7. 社会保障の概念・対象及び理念⑤(発達)
8. 社会保障の財源と費用①(社会保障の財源)
9. 社会保障の財源と費用②(社会保障給付費)
10. 社会保障の財源と費用③(国民負担率)
11. 社会保険と社会扶助の関係(社会保険の概念と範囲)
12. 公的保険制度と民間保険制度の関係
13. 社会保障制度の体系①(年金保険制度の概要)
14. 社会保障制度の体系②(医療保険制度の概要)
15. 前期試験
16. 社会保障制度の体系③(介護保険制度の概要)
17. 社会保障制度の体系④(労災保険制度の概要)
18. 社会保障制度の体系⑤(雇用保険制度の概要)
19. 社会保障制度の体系⑥(社会福祉制度の概要)
20. 社会保障制度の体系⑦(生活保護制度の概要)
21. 社会保障制度の体系⑧(家族手当制度の概要)
22. 年金保険制度の具体的内容①(国民年金)
23. 年金保険制度の具体的内容②(厚生年金)
24. 年金保険制度の具体的内容③(各種共済組合の年金)
25. 医療保険制度の具体的内容①(国民健康保険)
26. 医療保険制度の具体的内容②(健康保険)
27. 医療保険制度の具体的内容③(各種共済組合の医療保険)
28. 先進諸国における社会保障制度の概要
29. まとめ
30. 定期試験

■低所得者に対する支援と生活保護制度

角和 夕佳

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢・福祉需要とその実態、相談援助活動において必要となる生活保護制度や関連する他の法制度、自立支援プログラムの意義と実際について理解することを目的とする。

●授業の方法●

教科書の流れに沿いつつも出典や最新の動向等についての資料を別途配布しながら講義形式で行う。また、国家試験に過去問などを用いて知識の定着を図りながら進めていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

低所得者に対する支援について深く理解していくための基礎を身につけることが達成課題であるが、具体的な指標としては国試レベルの実力をつけることである。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 低所得者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要
2. 生活保護費と保護率の動向
3. 生活保護制度—生活保護法の概要
4. 生活保護制度—国・都道府県・市町村の役割・ハローワークの役割
5. 生活保護制度—現業員・査察指導員の役割
6. 生活保護制度—保険と医療の連携
7. 生活保護制度—労働施策と連携・その他の施策との連携
8. 福祉事務所の役割と実際—福祉事務所の組織体系
9. 福祉事務所の役割と実際—福祉事務所の活動の実態
10. 自立支援プログラムの意義と実際—自立支援プログラムの目的
11. 自立支援プログラムの意義と実際—自立支援プログラムの作成過程と方法
12. 自立支援プログラムの意義と実際—自立支援プログラムの実際
13. 低所得者対策
14. ホームレス対策
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 80%、出席率 20%

●教科書●

最新社会福祉士養成講座 4 「貧困に対する支援」(中央法規)

■保健医療サービス

瀬谷 孝弘

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

『保健医療サービス 第 5 版』社会福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規出版）

●授業のねらい●

相談援助活動において必要となる保健医療の制度やサービスについての理解を深め、各専門職の役割とその連携、協働についての理解を通して、実際の社会福祉的支援と問題に対応できる実践力を身につける。

●授業の方法●

基本的に教科書（テキスト）に従い、授業のねらい及び授業での達成課題上特に重要とも思われる章、項目については、参考資料などによる補填を行う。また、授業の中で小テストなどを適宜に実施し国家試験対策を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

保健医療上の各制度やサービス及び専門職について、利用者との関連性の上に理解する。

●授業計画（講義の流れ）●

- I. 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割
 1. ①保健医療サービスとその構成要素（ひと・もの・かね・情報）
②戦後の保健医療サービスの整備・拡充
 2. ③医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題
④医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士
- II. 保健医療サービスを提供する施設とシステム
 3. ①医療法による医療施設の機能・類型
②保健医療政策による医療施設の機能・類型
 4. ③地域包括ケアシステムと在宅医療
 5. ④診療報酬における医療施設の機能・類型
⑤介護保険法における施設等の機能・類型
- III. 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割
 6. ①医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み
②業務の内容（ミクロのソーシャルワーク）
 7. ③業務の内容（ミクロからメゾへのソーシャルワーク）
④業務の内容（メゾからマクロへのソーシャルワーク）
- IV. 保健医療サービスの専門職の役割
 8. ①保健医療サービス専門職の概観
 9. ②保健医療サービス専門職の基本的姿勢
③保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際
- V. 保健医療サービスの提供と経済的保障
 10. ①医療保険制度と診療報酬制度の概要
②介護保険制度と介護報酬の概要
 11. ③公費負担医療制度の概要
- VI. 保健医療サービスにおける専門職の連携と実戦
 12. ①保健医療の専門職との連携方法と基礎知識
②チームケア実現のための制度や連携機関・団体
 13. ③保健医療の専門職との連携の実際
- VII. 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実戦
 14. ①地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識
 15. ②地域ケアネットワークの実際、定期試験

■権利擁護と成年後見制度

森 長秀

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (15 回)

●授業のねらい●

成年後見制度および権利擁護のあり方について、国家試験に合格する知識・学力を修得するとともに、資格取得後に相談援助活動の実務において活用しうる制度理解を養うことを目標とする。

●授業の方法●

下記シラバスの内容に従い、テキストおよび六法を用いて講義形式で進めていく。あわせて、時間の許す限りにおいて、国家試験対策として過去問演習や、その他の問題演習を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

当該科目における国家試験問題に対応できる（＝合格レベル）学力と、実務において活用可能な制度理解を養う。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 成年後見制度の概要①（法定後見制度）
2. 成年後見制度の概要②（任意後見制度）
3. 日常生活自立支援事業の概要
4. 成年後見制度利用支援事業の概要
5. 権利擁護に係るマンパワー
6. 権利擁護に係る組織
7. 団体の役割と実際
8. 権利擁護と相談援助活動
9. 権利擁護活動の実務と今後の動向
10. 相談援助活動と法との関わり①（権利擁護と社会福祉相談援助の意義）
11. 相談援助活動と法との関わり②（日本国憲法と権利擁護）
12. 相談援助活動と法との関わり③（民法と権利擁護）
13. 相談援助活動と法との関わり④（行政法と権利擁護）
14. 相談援助活動と法との関わり⑤（社会福祉関連各法と権利擁護）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

『権利擁護と成年後見制度』（第4版）社会福祉士シリーズ 19（弘文堂）

■障害者に対する支援と障害者自立支援制度

片桐 正善

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (15 回)

●授業のねらい●

障害とは、その人の心身の機能や能力の問題ではなく、社会との関係のなかで立ち現れる現象である。だとするならば、障害者とは、差別や偏見や配慮の欠如を含む社会環境によって不利益が集中し、「できなくされている人」なのだと理解できよう。近年の障害者福祉は、このような「障害の社会モデル」の考え方を手掛かりに、私たちの新たな生き方や現代社会の別の在り方を考え直すひとつのきっかけを与えてくれる。

この講義においては、入所施設を中心として進められてきた障害福祉政策の歴史を踏まえつつ、その後の障害概念の転換、そして今日の障害者福祉制度を概観する。そのうえで、地域で自律／自立して生きて暮らすために必要な「新たな福祉のかたち」について検討する。

●授業の方法●

教科書を中心にすえた講義形式の授業を、レジュメを使って展開する。また、進捗度合いに応じて講義の妨げにならない範囲で、国家試験の過去問題や模擬問題の解説も行う。

国家試験の過去問の解説は9年分を別途配布する。授業を踏まえて、授業外で並行して過去問に向き合うことを望む。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①「障害の社会モデル」を理解すること。
- ②現代の障害者福祉の制度を、歴史的観点から、自分なりに評価することができるようになること。
- ③新たな福祉のかたちを構想し、同時に自分がいる社会の新たな在り方を構想できるようになること。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 日本の障害者施策の歴史
2. 障害の概念と理念
3. 障害者の生活実態とニーズ
4. 障害者福祉の法の考え方
5. 障害者福祉の法の考え方
6. 障害者基本法
7. その他の措置的な障害者関連の法
8. その他の措置的な障害者関連の法
9. 障害者虐待防止法、障害者差別解消法
10. 障害者の社会生活参加
11. 障害者総合支援法
12. 障害者総合支援法
13. 障害者総合支援法
14. 障害に対するその他の施策
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験の成績 90%、講義への出席 10%にて評価する。

●教科書●

『新・社会福祉士シリーズ 障害者福祉』弘文堂

■精神疾患とその治療

佐藤 毅明

P S W 昼 1・2 / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (30 回)

●授業のねらい●

精神保健福祉士としてチーム医療に参加するにあたり、授業で学んだ精神医学の知識を基礎として他の医療従事者達と円滑なコミュニケーションを行えること。患者およびその家族に対し支持的に接し、必要に応じて精神医学の基本的な知識を説明でき、心理的援助を行うことができること。精神医学について多元主義的な哲学に基づいて信念をもって行動できること。

以上を目的として講義を行う。

●授業の方法●

基本的には指定教科書(テキスト)を基にした講義形式であるが、適宜、双方向性の質疑応答も導入する。そのため、テキストに目を通すなど簡単な予習をしたうえで授業に臨むことが望ましい。また、時間に余裕がある限りにおいて国家試験過去問に触れる機会を設ける予定である。

●授業修了時の達成課題(到達目標)●

1年後の国家試験合格に必要な精神医学についての知識をアウトプットできること。非医療従事者に対して、精神疾患とその治療法について基本的な知識を分かりやすく自分の言葉で説明できること。

●授業計画(講義の流れ)●

※内容は授業の進捗に応じて変更となる可能性がある

1. 精神疾患とその治療
2. 統合失調症および精神病性障害 (F2)
3. 気分障害 (F3)
4. 症状性を含む器質性精神障害 (F0)
5. 精神作用物質による精神および行動の障害 (F1)
6. 現代精神医学総論
7. 診察・検査・診断
8. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (F4)
9. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (F5)
10. 成人のパーソナリティ及び行動の障害 (F6)
11. 知的障害・発達障害 (F7、F8、F9)
12. てんかんと脳波
13. 精神症状と状態像
14. 過去問演習
15. 定期試験
16. 精神現象の生物学的基礎 ①解剖学
17. 精神現象の生物学的基礎 ②神経伝達物質と精神薬理学
18. 生物学的治療(薬物療法)
19. 生物学的治療(身体療法)
20. 心理(学)的治療
21. 精神科リハビリテーション
22. インフォームドコンセントと強制治療
23. 精神科治療と入院形態(措置入院・医療保護入院など)
24. 精神科入院における処遇のあり方
25. 精神科救急システム・移送制度による入院
26. 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割
27. 治療の導入に向けた支援・退院促進の支援・再発予防の支援

28. 医療観察法対象者の支援
29. 精神科医療機関の治療構造
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 60% 講義への出席 40%

●教科書●

精神診療プラチナマニュアル 第2版 松崎朝樹(著)

■精神保健の課題と支援

岡崎 直人

P S W 昼 1・2 / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (30 回)

●授業のねらい●

- ・精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について総体的に述べる事が出来る。
- ・現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実践及び精神保健福祉士の役割について具体的に想像することができる。
- ・精神保健を維持、増進するために機能している専門機関や関係職種との役割と連携について具体的に理解できる。
- ・国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策についてその特徴を述べる事が出来る。

●授業の方法●

講義を中心に行う。必要に応じて、参考文献などを用いて授業内容を補足したい。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

現代社会の課題と精神保健の関連を理解して、広い視野に立った精神保健福祉士になる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 人と環境と精神保健
2. 精神的健康とは何か（精神衛生と精神保健及びメンタルヘルス）
3. 精神保健へのアプローチ（精神の健康、予防、さまざまな精神保健活動）
4. 精神保健問題のアセスメント（精神障害の分類など）
5. ライフサイクルと精神保健①（胎児期～乳児期）
6. ライフサイクルと精神保健②（幼児期～児童期）
7. ライフサイクルと精神保健③（思春期～青年期）
8. ライフサイクルと精神保健④（成人期～人生の完結）
9. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ①（現代日本の家族の形態と機能、結婚生活）
10. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ②（家庭生活、病気療養や介護、社会的ひきこもり）
11. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育と生徒児童の特徴）
12. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（教員の精神保健、関与する専門職と関係法規、）
13. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、うつ病と過労自殺など）
14. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（飲酒やギャンブルに関する問題、心身症と生活習慣病）
15. 定期試験
16. 地域精神保健福祉に関する諸活動①（ネットワークづくり、資源開発）
17. 地域精神保健福祉に関する諸活動②（精神保健に関する調査、国民の精神障害観、施設コンフリクト）
18. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（ニートや貧困問題、ホームレスと精神保健）
19. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（災害被災者、犯罪被害者の精神保健、災害時対策）
20. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（アイデンティティをめぐる問題と対策）
21. 精神保健に対する対策と精神保健福祉士の役割①（精神障

害者、障害者支援をめぐる精神保健と虐待）

22. 精神保健に対する対策と精神保健福祉士の役割②（認知症）
23. 精神保健に対する対策と精神保健福祉士の役割③（アルコール問題）
24. 精神保健に対する対策と精神保健福祉士の役割④（薬物乱用、子どもと家庭）
25. 精神保健に対する対策と精神保健福祉士の役割⑤（地域精神保健対策ターミナルケア、うつ病と自殺対策）
26. 精神保健関連機関の役割と連携①（精神保健に係る法規、行政機関）
27. 精神保健関連機関の役割と連携②（地域保健福祉に関わる行政機関の役割及び関係団体）
28. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策①（世界における精神保健の潮流）
29. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策②（世界各国の精神保健医療）
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席とレポート 30%

●教科書●

精神保健福祉士シリーズ「精神保健の課題と支援第2版」福祉臨床シリーズ編集委員会編（弘文堂）

■精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）

福村 香菜

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (15 回)

●授業のねらい●

- ①精神保健福祉士の役割と意義について理解する。
- ②社会福祉士の役割と意義について理解する。
- ③相談援助の概念と範囲について理解する。
- ④相談援助の理念について理解する。

●授業の方法●

教科書の内容に沿ったレジュメを用いた講義を中心に行う。
その他、適宜視聴覚教材も活用する。

●授業終了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉分野における精神保健福祉士の役割と意義を理解し、実際の相談援助の基盤的基礎知識について説明できる。

●授業計画（講義の流れ）●

- 1 オリエンテーション
- 2 ソーシャルワーカーの臨床性と社会性
- 3 精神保健福祉士の役割（1）
- 4 精神保健福祉士の役割（2）
- 5 精神保健福祉士の役割（3）
- 6 社会福祉士の役割
- 7 相談援助の概念（1）
- 8 相談援助の概念（2）
- 9 相談援助の理念（1）
- 10 相談援助の理念（2）
- 11 相談援助の理念（3）
- 12 相談援助の理念（4）
- 13 相談援助の理念（5）
- 14 相談援助の理念（6）
- 15 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 90% 出席率 10%

●教科書●

『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）』（弘文堂）

■精神保健福祉相談援助の基盤（専門）

福村 香菜

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (15 回)

●授業のねらい●

- ①精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。
- ②精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。
- ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
- ④精神保健福祉活動における総合かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

●授業の方法●

教科書の内容に沿ったレジュメを用いた講義を中心に行う。
その他、適宜視聴覚教材も活用する。

●授業終了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉分野における精神保健福祉士の役割と意義を理解し、実際の相談援助の基盤的応用知識について説明できる。

●授業計画（講義の流れ）●

- 1 オリエンテーション
- 2 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要 1
- 3 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要 2
- 4 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要 3
- 5 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲 1
- 6 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲 2
- 7 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲 3
- 8 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 1
- 9 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 2
- 10 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 3
- 11 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携 1
- 12 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 2
- 13 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 3
- 14 まとめ
- 15 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 90% 出席率 10%

●教科書●

『精神保健福祉相談援助の基盤（専門）』（弘文堂）

■精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I

岡崎 直人

PSW 昼1・2 / 講義 / II と合わせて 8 単位 / 通年 / 必修 (II と合わせて 60 回)

●授業のねらい●

- ①精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と精神障害者に対する支援の基本的考え方を理解する。
- ②精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。
- ③精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術及び活用する方法について理解する。

●授業の方法●

精神障害者を主たる対象とした援助活動を展開するために必要な理念、知識、技術の習得を主眼として、講義を中心に授業を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉士として、必要な知識・価値・支援の方法を把握し、その専門性を発揮した相談援助業務を遂行できる。

●授業計画（講義の流れ）●

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I

1. オリエンテーション
- 2～3. 精神保健医療福祉の歴史と動向
日本の精神保健医療福祉の変遷
4. 諸外国の精神保健医療福祉の変遷
5. 精神障害者支援の基本
精神障害者支援に関する理念
6. 精神障害者の人権擁護の思想
7. 精神保健福祉士の精神障害者支援
日本における精神保健福祉士の活動の歴史
8. 精神保健医療福祉領域における支援対象者
9. 支援者と支援対象者との相互関係のあり方
10. 精神科リハビリテーションとは何か
精神科リハビリテーションの概念
11. 精神科リハビリテーションの理念
12. 精神科リハビリテーションの基本原則
13. 精神科リハビリテーションの意義
14. 精神科リハビリテーションの構成と展開
精神科リハビリテーションの構成
15. 地域社会に根ざしたリハビリテーション
16. 定期試験
17. 精神科リハビリテーションのプロセス
インテーク（受理）と動機づけ
18. リハビリテーション診断
リハビリテーション計画
19. アプローチの方法と評価
アルコール依存症のリハビリテーション事例
20. 医療機関における専門療法としてのリハビリテーション
21. 精神科作業療法とレクリエーション
22. 集団療法
23. SST（生活技能訓練）
精神科デイケア・ナイトケア
24. アウトリーチサービス

家族教育プログラム

25. 多職種協働による精神科リハビリテーション
精神科医療チームの概要
26. 多職種との協働・連携の技術
27. リハビリテーションチームにおける PSW の役割
28. 人間性回復のためのリハビリテーション
リカバリーの展開
ピアカウンセリング
29. 多文化ソーシャルワーク
アンチスティグマ
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席状況と提出物 30%

●教科書●

「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I」坂野憲司編（弘文堂出版）

■精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ

坂野 憲司

P S W 昼 1・2 / 講義 / I と合わせて 8 単位 / 通年 / 必修 (I と合わせて 6 0 回)

●授業のねらい●

精神保健福祉領域のソーシャルワークを理解し、ソーシャルワークが人間の適応・成長・発展に深くかかわっていることを理解してもらうことが授業の目的です。

そのため、ソーシャルワークの定義、歴史的展開、援助技術と援助過程について、順を追って講義いたします。

●授業の方法●

講義形式で行います。討論を通して、できるだけ学生に授業に参加して頂きます。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

ソーシャルワークの難しさと面白さを実感していただき、ソーシャルワーカーの仕事に魅力を感じてもらうこと、さらにソーシャルワークを学びたいと思っていただくことです。

●授業計画（講義の流れ）●

1. ソーシャルワークの国際定義（総論）
2. ソーシャルワークの基本的枠組み
3. ソーシャルワークの価値・理論・技術
4. ソーシャルワークの起源と形成
5. ソーシャルワークの展開
6. ソーシャルワークの混乱と展開
7. ソーシャルワークの原則
8. ソーシャルワークのモデルと特徴
9. 個別援助技術（ケースワーク）の定義
10. 個別援助技術の理論
11. インテークと情報収集
12. アセスメントと計画立案
13. 介入と評価
14. スーパービジョンとコンサルテーション
15. 定期試験
16. 集団援助（グループワーク）の起源
17. 集団援助の理論・援助媒体
18. 集団援助の流派と定義
19. グループワークの原則
20. グループワークのプロセス・準備期・開始期
21. グループワークのプロセス・作業期・終結期
22. 地域援助技術の起源と定義
23. 地域援助技術の理論と原則
24. 地域援助技術のプロセス
25. 地域援助技術の実践
26. ケアマネジメントの起源・ケースマネジメント
27. ケアマネジメントの類型とストレングスモデル
28. ケアマネジメントのプロセス
29. ケアマネジメントの焦点
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」 坂野憲司編（弘文堂）

■精神保健福祉に関する制度とサービス

新谷 いずみ

P S W 昼 1 ・ 2 ／ 講義 ／ 4 単位 ／ 通年 ／ 必修 （ 3 0 回 ）

●授業のねらい●

精神保健福祉に関連する法制度やサービス、社会調査の活用について理解を深め、精神保健福祉士として求められる価値や実践について学ぶことを目的とする。

●授業の方法●

教科書の内容に沿ったレジュメを用いた講義を中心に、適宜教科書の内容を確認しながら進める。また近年の動向について触れるための資料を用いた解説を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・精神保健福祉士による支援と精神保健福祉に関する法制度やサービス、社会調査の活用の関連について説明することができる。
- ・精神保健福祉に関する法制度やサービス、社会調査の活用や成立に至った経緯等の理解を踏まえて、精神保健福祉士に求められる価値と実践について自分なりに述べることができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 前期オリエンテーション・精神保健福祉に関する最近のトピック
2. 社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス
3. 精神保健福祉法① 成立までの歴史
4. 精神保健福祉法② 意義と改正の流れ
5. 精神保健福祉法③ 全体像
6. 精神保健福祉法④ 精神保健福祉法における入院
7. 精神保健福祉法⑤ 精神保健福祉法における行動制限
8. 精神保健福祉法⑥ 精神保健福祉法における権利擁護（精神医療審査会）
9. 精神保健福祉法⑦ 精神保健福祉法における権利擁護システム
10. 精神保健福祉の動向
11. 障害者基本法・障害者総合支援法の背景と全体像
12. 障害者総合支援法① 障害者総合支援法におけるサービスの要点
13. 障害者総合支援法② 障害者総合支援法におけるサービスの実際
14. 前期振り返りとまとめ
15. 定期試験
16. 後期オリエンテーション・社会保障制度
17. 社会保障制度・経済的支援に関する制度
18. 介護保険制度と地域包括ケア
19. 精神保健福祉に関わる支援制度と機関（自殺対策・認知症・ひきこもり等）
20. 精神保健福祉に関わる組織、団体等（インフォーマルな社会資源）
21. 更生保護制度① 概要
22. 更生保護制度② 司法の流れ・更生保護の担い手
23. ゲストスピーカー講義（予定）
24. 医療観察法① 法律制定までの流れ
25. 医療観察法② 医療観察法の概要（入院処遇・退院処遇）

26. 社会調査① 概要と倫理的配慮
27. 社会調査② 調査方法
28. ゲストスピーカー講義（予定）
29. 後期振り返りとまとめ
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

「新・精神保健福祉士養成講座 第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編（中央法規）

■精神障害者の生活支援システム

新谷 いずみ

P S W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (15 回)

●授業のねらい●

精神障害者を取り巻く実情について理解し、「その人らしい生活」を支援するために必要な、精神障害者を支える制度、施策と地域生活支援について学ぶことを目的とする。

●授業の方法●

教科書の内容に沿ったレジュメを用いた講義を中心に、適宜教科書の内容を確認しながら進める。また近年の動向について触れるための資料を用いた解説を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・精神障害者を取り巻く実情を踏まえて、「その人らしい生活」とは何かを述べるができる。
- ・主に相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護活動等の視点から精神障害者の地域生活支援の意義を理解し、精神障害者のニーズに応じた支援について検討することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション・精神障害者と生活支援
2. ICF（国際生活機能分類）
3. 精神障害者の生活の実態
4. 精神障害者と家族
5. 精神障害者の生活支援の理念
6. 精神障害者の人権と権利擁護システム
7. 精神障害者の居住支援 ～制度と住まい～
8. 精神障害者の居住支援 ～居宅生活支援～
9. 精神障害者の就労支援 ～制度と支援機関～
10. 精神障害者の就労支援 ～支援の実態～
11. 精神障害者の相談支援体制
12. 精神障害者ピアサポート
13. 地域生活支援と根拠に基づく実践
14. 行政における相談援助
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

「精神障害者の生活支援システム（第3版）【精神保健福祉士シリーズ8】」上野容子、宮崎まさ江 編（弘文堂）

■精神保健福祉援助演習（基礎）

岡崎 直人・新谷 いずみ・福村 香菜・瀬谷 孝弘

P S W 昼 1・2 / 演習 / 1 単位 / 半期 / 必修 (15 回)

●授業のねらい●

他の専門科目と連動しながら、ソーシャルワーク実践における理念・倫理・知識と技術について、実践的に習得する。

●授業の方法●

教員から提示されたテーマに沿って、グループディスカッション、発表、ロールプレイ等を中心に授業を進める。本科目は相互学習に基づく参加型の授業であるため、各自がディスカッションや発表に積極的に参加することが求められる。

※教員毎のシラバスの詳細については、4 月以降順次配布予定。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・自己覚知を通して自身の感情、障害者観、価値観、対人傾向などに対して述べるができる。
- ・精神保健福祉士としての価値・倫理・知識・技術が具体的な実践場面の中でどのように具現化されるのかについて、事例学習を行う。
- ・支援関係を形成するための基本姿勢と関わり行動を習得する。
- ・相談援助活動における基本的なコミュニケーション技術を習得する。
- ・アセスメントの基本的技術を習得する。
- ・記録に関する知識と技術を習得する。
- ・集団援助技術について述べるができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション
2. 専門的支援関係
3. 自己覚知
4. ジェノグラム・エコマップ
5. 基本的なコミュニケーション技術の習得
6. 基本的な面接技術の習得
7. 集団援助技術の習得①
8. 集団援助技術の習得②
9. 情報の収集・整理・伝達の技術の習得
10. 課題の発見・分析・解決の技術の習得
11. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
12. 地域アセスメント
13. 受理面接のロールプレイ①
14. 受理面接のロールプレイ②
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 85%、出席率 15%

●教科書●

「精神保健福祉援助演習（基礎）」坂野憲司編（弘文堂）

■精神保健福祉援助演習（専門）

岡崎 直人・新谷 いずみ・福村 香菜・瀬谷 孝弘

P S W 昼 1・2 / 演習 / 2 単位 / 通年 / 必修 (30 回)

●授業のねらい●

他の科目（特に精神保健福祉援助演習Ⅰ、精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助実習）との関連性を視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、精神保健福祉援助実習等における学生の個別的体験も利用しながら、具体的事例を一般化、理論化する能力を涵養する。適宜、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

●授業の方法●

小グループでの実践練習を中心に進める。

※教員毎のシラバスの詳細については、4 月以降順次配布予定。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識・技術について実践的に習得する。

●授業計画（講義の流れ）●

前期：精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた援助の基礎について実践的に習得する。

1. オリエンテーション、精神科ソーシャルワークの視点（基礎理論・方法の基礎・解決の視点）、精神保健福祉援助演習Ⅰとの関連性の説明
- 2～20. 実習体験での事例検討（スーパービジョン体験）
- 21～29. 様々な事例検討（以下の視点を学ぶ）
 - 援助過程の基本的な展開
（個別援助を中心テーマに、サービス利用～終わりで）
インテーク（受理面接）、契約、アセスメント（課題分析）、プランニング（支援の計画）支援の実施、モニタリング（経過観察）、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア
 - 集団援助の技法
グループダイナミクス活用、セルフヘルプグループ、ピアサポート、SST、心理教育等
 - 地域援助の技法（地域へのソーシャルワーク、ソーシャルインクルージョン、社会資源の活用・調整・開発、ネットワーキング等）
 - その他、危機介入、アウトリーチ、ひきこもり支援、ケアマネジメント技法、多職種との連携、チームアプローチ、エンパワメント、退院支援、地域移行支援等について
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出欠率 30%

●教科書●

指定なし

■精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

学科専任教員

PSW 昼1・2／演習／3単位／通年／必修（45回）

●授業のねらい●

精神保健福祉士としての価値、倫理、基本知識、技能を職場・職種・ソーシャルワーク実践の観点から学習する。職業人としての基本的態度を身に付ける。

●授業の方法●

講義、個別指導、グループスーパービジョン、ビデオ視聴、グループプロジェクト等を行う。また、本科目ではゲスト講義や視聴覚教材を元に各自が課題に取り組み、能動的に学習していくことが求められる。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

【前期】

- ・現場実習に臨むための意欲や姿勢が備わる。
- ・現場実習に向けた自分自身の目標と取り組み課題が明確になる。
- ・精神保健福祉士としての資質についての自己理解を述べることができる。
- ・実習機関の機能や制度的位置づけについて述べるができる。
- ・精神保健福祉士の価値・倫理、および各実習機関における精神保健福祉士の役割を述べるができる。

【後期】

- ・第1期実習での体験を専門的価値・知識・技術を通して振り返り、概念化し、それを述べるができる。
- ・専門的価値・知識・技術に基づく自己アセスメントを行い、第1期実習の目標と具体的な取り組み計画を立案する。
- ・第1期実習での体験の振り返りから、現在の精神保健医療福祉の現状と課題について検討し、それを述べるができる。

●授業計画（講義の流れ）●

実習指導Ⅰ・Ⅱ（前期）

1. 精神保健福祉援助実習の概要／職業選択の動機
2. 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義
3. 配属実習に向けた個人面談
4. 配属実習に向けた個人面談／グループ学習
5. 配属実習に向けた個人面談／グループ学習
6. 配属実習に向けた個人面談／グループ学習
7. 実習記録ノート記録内容及び記録方法に関する理解
8. 精神科病院に従事するPSWによるゲスト講義
9. 精神科病院に関するグループ学習
10. 精神科デイケアに従事するPSWによるゲスト講義
11. 精神科デイケアに関するグループ学習
12. 精神科病院の概要と今日的課題の理解
13. 精神科デイケアの概要と今日的課題の理解
14. 地域活動支援センターに従事するPSWによるゲスト講義
15. 地域生活支援・相談支援に関するグループ学習
16. 就労支援に従事するPSWによるゲスト講義
17. 就労支援に関するグループ学習
18. 地域生活支援・相談支援の概要と今日的課題の理解
19. 就労支援の概要と今日的課題の理解
20. 目標と課題の作成について

21. 当事者によるゲスト講義
22. 目標と課題の作成／グループ討議1
23. 目標と課題の作成／グループ討議2
24. 目標と課題の作成／グループ討議3
25. 目標と課題の作成／グループ討議4
26. 実習ガイダンス
27. 実習における心構え（実習における実習生が心がける常識と留意点）
28. 実習における心構え（個人のプライバシー保護、守秘義務の理解等、PSW倫理綱領の遵守とジレンマ）
29. 実習後の提出物、後期の実習指導に向けてのガイダンス
30. 前期の総括と実習に向けてのまとめ

実習指導Ⅲ（後期）

31. オリエンテーション
32. 実習報告書の下書きのシェアリング
33. 実習報告第1回
34. 実習報告第2回
35. 実習報告第3回
36. 実習報告第4回
37. 実習報告第5回
38. 精神保健福祉士業務指針の説明と整理
39. 業務指針による整理と分かち合い
40. 後期実習に向けての目標と課題の発表1
41. 後期実習に向けての目標と課題の発表2
42. 後期実習に向けての目標と課題の発表3
43. 後期実習に向けての目標と課題の発表4
44. 卒業生からのメッセージ
45. 後期実習についての確認 1年間の総括

●成績評価・講義上の注意●

【前期成績評価】

出席状況 10%、課題レポート 70%、その他の提出物の提出状況 20%

【後期成績評価】

出席状況 10%、課題レポート 70%、その他の提出物の提出状況 20%

上記を基本として総合的に評価する。

●教科書●

「精神保健福祉援助実習指導・実習（第2版）」日本精神保健福祉士養成校協会編（中央法規出版）

■精神保健福祉援助実習

学科専任教員

P S W 昼 1 ・ 2 ／ 実 習 ／ 7 単 位 ／ 通 年 ／ 必 修 （ 2 1 0 時 間 ）

●実習のねらい●

精神保健福祉士として必要な援助技術や知識の向上のために実習を行う。具体的には、①精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実的に理解し実践的な技術等を体得する。②精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。

●実習の方法●

厚生労働省により示された基準を満たす実習施設で、基準を満たす実習指導者のもと、所定の時間（210時間以上）の実習を行う。

配属される実習施設は、医療機関及び福祉施設等の2か所以上である。その内、医療機関は90時間以上となる。

実習中は、教員による週1回程度の巡回または帰校による指導が行われる。

●実習修了時の達成課題（到達目標）●

実習体験を、精神保健福祉に係る各講義科目、精神保健福祉援助演習、精神保健福祉援助実習指導等での学習とも統合させながら、精神保健福祉士として必要な知識と技能を身につけることが達成課題である。具体的内容は以下の通りである。

①精神科医療機関において必要とされる知識と技能

- ア 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助
- イ 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
- ウ 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助
- エ 治療中の患者及びその家族への相談援助
- イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助
- オ 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助

②福祉施設において必要とされる知識と技能

- ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
- エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
- オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
- カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
- キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解

の理解

- ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践
- ケ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

●実習過程と科目配置●

実習過程と科目配置は、概ね次のような関係になっている。

- ・実習前及び実習後は「精神保健福祉援助実習指導」
- ・実習中は「精神保健福祉援助実習」（本科目）

●成績評価・講義上の注意●

各実習施設の評価50%及び、巡回指導を基にした教員の評価を50%として最終的な評価を決定する。

●教科書●

指定しない。「実習ノート」が配布される。

